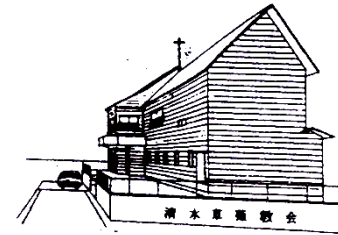


# 週報

2008年 3月 30日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。

使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

T 424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸

《今朝の聖書から》今朝の箇所は、先週の続きになります。また、来週に続くこととなります。今日の箇所で、イエス様は二度、弟子たちの前に復活の姿で現れたことが書かれています。二度とも最初の言葉は“平安があるように”です。そして“あなた方を派遣する”と仰います。その関係はみ父とみ子の関係と同じというのです。イエス様は父なる神にとって、大切なものであり、また素晴らしい働きをする存在です。派遣される人々も、派遣される方の意をはっきりと示すことのできる者であり、大切なものです。主に遣わされる者は“御心にかなう人”なのです。そして派遣の心構えとして“赦す”ということについて語られます。私たちがもし、赦さないでいることがあったら、そのことについてちょっと考えてみましょう。怒りもしなかったら、“赦せない”ということなど問題にすることもありません。私が赦していないことに、その当の相手が気づいていなかったら、いつまでも赦していない、私の心に、平安とは反対のものが残るだけです。そのような事柄は忘れてしまった方が、どんなにか毎日を豊かにしてくれるか分かりません。日々の多くの不安がこんな所から来ていることって、ないでしょうか。イエス様は“罪を赦す為に遣わす”と言っておられるのです(20:21)。22節で、ヨハネがはっきりと、忘れずに言っていることがあります。“聖霊を受けよ”という宣言です。弟子たちはこの時から、御霊に伴われる存在となるのです。この時から弟子たちは“御霊による平安”を知る人たちに換えられたのです。“ユダヤ人を恐れる人々(19節)”から“派遣される人々”に換えられているのです。みんなが持っている“死に向かって生きていること不安”にまで、イエス様の、“聖霊を受けよ”という言葉は、栄光の復活を通して届いているのです。さてここに“疑い深いトマス”がいます。疑うということは良いことです。それによって本当のことがその人の前に明らかにされ、信仰においても、御心にかなう信仰者になることができるからでしょう。ここでの中心は、疑いや、不安の只中にも、イエス様はやってきてくださるということ。もう一つ“八日の後(26節)”についてみましょう。疑いを解消するなら、即座に現れればよさそうなものですが、イエス様は“期間”を置かれました。何故でしょうか、おそらく、信仰を養うためだったでしょう。以前に主が語られたことのすべて、何を恐れ何に迷っているのか、トマスは主に会う準備をしていたこととなります。